

医療福祉研究マッチングおよび実用化支援システム技術調査専門委員会 設置趣意書

システム技術委員会

1. 目的

本調査専門委員会では、医療福祉研究の実用化を推進するために、実用化支援システムの提案をすることを目的とする。研究開始から実用化・商品の利用までの全ての段階において、医療機関と研究機関のマッチングや、ニーズとシーズのずれ違いの防止等を実現するため、医療・福祉・工学の専門家同士の意見交換が可能なシステムを提案する。具体的には、医療従事者が行う工学技術の必要な研究への工学研究者による知識・技術提供、および、工学研究者が行う医療・福祉知識や被験者の必要な研究への医療・福祉専門家の知識提供・被験者紹介、既存の製品や技術の検索等が、円滑に行われるシステム構築を目指す。特に、従来の研究題目の掲示やタグ付けによる紹介方式のみに留まらず、研究内容や過去の共同研究等から、自動的に最適なマッチングを推奨できるシステムの構築を目指す。

2. 背景および内外機関における調査活動

世界に先駆けて超高齢社会を迎えた日本では、国の方針としての医療費抑制や、患者数の急激な増大に起因する人員不足などによって医療・福祉分野における問題が多数表面化しており、工学の立場からの貢献が期待されている。これに対し、工学と医療・福祉の融合を目指した様々な研究がなされ、華々しい結果が学会で報告されている。しかし、それらの研究が実際に医療・福祉の臨床現場で活かされているかと問えば、必ずしもそうとは言えない。

この問題は、医療側からのニーズと、工学側のシーズがうまくマッチしていない事などが原因だと早期から指摘されてきた。個々の研究においては、この原因を理解し、成功する例も出てきているものの、いまだその問題自体の根本的解決には至っておらず、工学としての貢献が計画通りには進まないまま、刻一刻と国の高齢化率が上昇の一途をたどっている。

この現状に対して、NEDOの生活支援ロボット実用化プロジェクトや、厚生労働省における障害者自立支援機器等開発促進事業など、個々の研究に対して重点を置いた支援プロジェクトが行われている。テクノエイド協会では患者からの声を吸い上げるシステムも構築している。しかし使用者と工学研究者の認識には壁が存在し、実際に必要な仕様の理解が進まないなどの問題も多い。これらの問題に対し、前委員会（医療福祉研究実用化システム構築調査専門委員会）における調査では、公的実用化支援を受けた企業に対して調査を行い、必要なマッチングシステムの要求仕様の検討を行った。また、既存の福祉機器の検索システムの特徴や性能に関して調査を行い、福祉機器の研究者でも目的の福祉機器に到達しないなど、その問題点を明らかにしてきた。

本提案ではこれらの問題点に対し、大学研究者・製品開発企業・医療関係者・患者のすべてを対象とできるようなマッチング・検索システムの構築を目指すための調査を行う。

3. 調査検討事項

- 1) 医療・福祉機器の知識のない利用者が利用可能な検索システムの検討
- 2) マッチングシステム・支援制度の検索システム構築の検討
- 3) システム構築に必要な技術手法の検討
- 4) 医療関係者への浸透手法の検討

4. 予想される効果

医療福祉研究のスピードアップはもちろん、これから行われる医療・福祉研究の中で、ニーズと合致しない研究や、研究継続中に現場のニーズからの逸脱が起こることを低減する。また、産み出された研究成果を必要としている現場への導入・利用者への浸透が促進される。

5. 調査期間

平成 28 年（2016 年）5 月～平成 30 年（2018 年）4 月

6. 活動予定

委員会 4 回／年 幹事会 2 回／年

7. 報告形態

C 部門大会企画セッションでの発表をもって報告とする。